

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：22702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12084

研究課題名（和文）新たな腰痛予防対策指針をふまえた看護基礎教育における移動技術教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a basic nursing education program for patient transfer techniques in compliance with new guidelines on the prevention of low back pain in the workplace

研究代表者

水戸 優子（MITO, YUKO）

神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：70260776

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、「職場における腰痛予防対策指針」（厚生労働省）をふまえ、看護基礎教育における移動技術教育プログラムを開発することである。1)移動技術に関する文献検討、2)看護教員を対象とした移動技術教育の実態調査、3)移動用具を使った移動技術を紹介したQ&Aおよび動画を作成しWeb上で公開を行った。最終的にこれらの成果を組み合わせ、ノーリフティングを取り入れた看護基礎教育における移動技術教育プログラムを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、看護基礎教育では指針が出されて5年を経たにも関わらず、ノーリフティング原則を含めた腰痛予防対策が浸透しておらず、移動用具を使った移動技術が教授されていない実態が明らかになった。そこで看護教員が容易にかつ効果的にWeb上で新たな移動技術を修得できる仕組みを作成した。これらにより看護基礎教育において指針に基づき、看護職者の腰痛予防対策を含む移動技術教育の普及が進展するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：A basic nursing education program was developed on patient transport techniques in compliance with the “Guidelines on the Prevention of Low Back Pain in the Workplace” by the Ministry of Health, Labour and Welfare. More precisely, we (1) completed a literature search of patient transfer techniques, (2) surveyed nursing school instructors on the actual status of education on patient transfer techniques, and (3) created a movie to introduce and demonstrate patient transfer techniques using devices and posted this and related text in a question and answer format on a designated website. Outcomes of the above-mentioned research and information on the no-lift now appear in the new basic nursing education program for patient transfer techniques.

研究分野：看護学

キーワード：腰痛予防対策指針 看護基礎教育 移動技術 移動用具 移乗用具 ノーリフティング 移動動作 プログラム開発

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 看護職者の腰痛問題の現状と全面改訂された「職場における腰痛予防対策」指針

看護職者の腰痛は、ボディメカニクスの活用不足と移動技術(わざ)の習得不足とされ、十分な対策がとられずにいた現状があり、腰痛が原因で離職せざるを得なかった看護職者が数多くいたことは否定できない。

厚生労働省は、2013年6月に「職場における腰痛予防対策」指針(以下、指針とする)を19年ぶりに大幅改訂し公表した。改訂のポイントは、介護・看護作業の項目が加わったこと、ノーリフトの原則が導入されたこと、腰痛を組織的問題とし対策を取るべきとしたこと、などである。これを受けて当該研究者らは、本指針に基づく移動技術を検討し普及活動に取り組んできた。しかし、なかなか浸透しない実態があった。

### (2) 看護基礎教育において新たな移動技術を導入、普及活動に取り組むことの必要性

看護基礎教育の現状をみると、指針そのものが浸透しておらず、ましてノーリフティング原則や移動用具・機器を用いた移動技術は導入されていないのが実態と言えた。看護基礎教育において、指針に基づいた新たな移動技術の普及に早急に取り組む必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、指針をふまえた看護基礎教育における移動技術教育プログラムを開発することである。具体的には、有効なボディメカニクス原則の明確化とノーリフティング(抱え上げない)原則を踏まえ移動用具・機器の積極的使用を組み合わせた移動技術の明確化、および看護基礎教育の現状を踏まえ、より有効な移動技術教育プログラムの作成、提案を行う。

## 3. 研究の方法

本研究は、平成29,30,31年の3年間で行う。各年の研究目標は以下の通りである；

### (1) 移動技術に関する教科書分析からの現状の把握と今後の課題の抽出

医療・福祉全般で用いられている教科書における移動技術の教授構成と内容、方法を抽出し分析する。教科書は、看護領域、介護福祉領域、リハビリテーション領域で用いられているもの10冊程度を収集し、内容分析を行う。

### (2) 国内外の移動技術に関する研究論文のクリティークとエビデンスの整理

医学中央雑誌 Web 版 ver.5 と PubMed を用いて、検索キーワードを「車椅子 Wheelchair」「移乗 Transfer」「看護 Nursing」「原著論文 article」にて、期間を限定せず検索を行う。検索された文献について除外基準に照らして文献を絞り込み、分析対象となる文献を選定し、クリティークを行う。クリティークの視点は Burns & Grove (2015) による研究デザインの分類を参考にする。

### (3) 移動技術の動画および移動技術ガイドラインを作成する。

既存の文献、市販の DVD (ビデオ) 並びに当該研究者が長年取り組み作成したビデオ動画を参考にし、研究者間でブレーストーミングを行いながら、動画撮影用のコンテンツを検討、その後、研究者間で移動技術の動画を撮影・編集し、動画を完成させる。移動技術普及用ガイドライン冊子については、既存の文献、先行研究、これまでの実績をもとに研究者間で討議を重ねて作成する。その際、日本看護技術学会の技術研究成果検討委員会の協力を得て、看護技術の Q&A (クエスチョンアンドアンサー) 形式で整理する。作成した移動技術動画および移乗技術 Q&A の冊子は、研修会や日本看護技術学会の HP を通じて公表し、さらに意見を収集しながら、年度ごとに更新を図る仕組みを作る。

### (4) 看護基礎教育機関の移動技術教育に関する実態調査

看護基礎教育における移動技術教育についての現状・実態を把握するために質問紙による実態調査を行う。対象者は、看護基礎教育において移動技術の教育に携わる看護専門学校および看護系大学の看護教員約 250 名とする。自記式質問紙(以下、調査票とする)と返信用封筒を郵送する。回収は返信用封筒にて行う。得られたデータは、単純集計と内容分析を行う。

### (5) 移動技術教育プログラム試案の作成と有識者からの意見より妥当性の確保

指針に基づく移動技術の動画および移動技術普及用ガイドライン冊子(移乗動作 Q&A)を用いて、日本看護技術学会学術集会の交流セッションにて、会場参加者と意見交換を行う。その際、会場参加者のうち、移動技術を担当し関心がある者に協力依頼を行い、アンケート調査およびインタビュー調査に協力を得る。その回答を有識者の意見として、その後の修正等に反映する。

なお、上記(4)(5)の実態調査は、神奈川県立保健福祉大学倫理審査委員会の承認(承認番号保大第 71-10)を得て実施する。

### (6) 動画のネット無料配信、移動技術教育プログラム(Q&A 冊子)の作成

移乗動作 Q&A 冊子を全国看護基礎教育機関に配布することで普及活動とする。

## 4. 研究成果

### (1) 移動技術に関する教科書分析の結果

厚生労働省より腰痛予防指針が出された2013年以降に発行された看護系、介護系の教科書を収集し、分析の視点に沿って分析を行った。尚、収集した教科書は、看護基礎教育機関および介護士養成機関で教科書として採用されている文献を選定した。結果、厚生労働省からの腰痛予防指針が出された後も、教科書の内容は、ボディメカニクスの基礎知識、ベッド上の移動、車椅子、輸送車、歩行の移動技術の手順、留意点が共通して載っており、指針の紹介やノーリフティング原則の紹介、移動用具の紹介などが、若干載ってはいるものの、画期的で劇的な変化は認められなかった。移動用具については紹介されているものの、用具を用いての方法や留意事項は載っていないことが2013年以降の教科書の実態として明らかになった。

### (2) 国内外の移動技術に関する研究論文クリティークの結果

医学中央雑誌 Web 版 ver.5 と PubMed を用いてキーワード「車椅子」「移乗」「看護」「原著論文」で1984年～2017年の期間で検索したところ、医学中央雑誌で191論文、PubMedで71論文が検索され、除外基準に基づき絞り込み、国内論文は2本を含む29件の論文を精読し分析した。

結果、移動技術に関する研究では、被験者数が必要なサンプル数だけ、確保されていない研究が大半であった。症例数が少なくなる背景には、麻痺の障害の種類など個別性に関わる特徴が影響していることが推測できた。さらに、それぞれの報告ごとに焦点が当てられている筋肉等の測定箇所が異なっており、他の研究との比較は困難であった。典型的な方法論としてのコンセンサスがあれば、これらの実験研究の蓄積が将来で意味をなすと考えられた。また、看護師と患者の体型の違いは、腰痛と関連する力学的な問題と関連する貴重なデータであるにもかかわらず、一般化しにくい現状が明らかになった。人力で抱え上げない移乗技術の発展・普及のために、ロボットなどの活用は、今後期待されている。しかし、現状は、それらの機器開発の段階であり、「看護の論文」としては欧文を含めて出版されていない可能性があった。今後、援助技術として臨床応用するためには、工学などとの共同研究が必要とされるが、特に、人間工学等の領域との協働が望まれると考察された。

### (3) 移動技術の動画および移動技術ガイドライン（移乗動作 Q&A）の作成結果

腰痛予防指針で推奨されている移動・移乗動作を視覚的に伝達することを可能にするために、ビデオ動画を教材として作成した。作成上の留意点は、Webで無料配信できるようにする、簡易に見られるよう動画時間は2分以内にする、入手が容易あるいは操作が容易な移動用具を使用した移動・移乗動作とする、テロップを使ってポイントを表示する、である。作成した動画は、次に述べる移乗動作 Q&A 冊子とセットで使用できるよう、Q&A 冊子内に QR コードを入れ、動画につながるようにした。

さらに、既存の文献、先行研究の分析、研究者間の討議をもとに、腰痛予防指針をふまえた移乗動作 Q&A を作成し、交流セッションにて会場参加者、有識者の意見をふまえて、2年をかけて改訂し、最終的に「改訂用具を使って楽に移乗介助を！ Q&A」を作成、Web 公表、冊子の配布を行った。尚、作成においては、日本看護技術学会第16回学術集会(2017年)にて、腰痛予防指針を反映した移動動作 Q&A の試作を発表し、参加者からアンケートを通じて意見聴取を行った。その結果、「良い、肯定的な回答」も寄せられたが、「課題に関する回答」の方が多かった。特に多く挙げられたのは、Q&A において小さい文字での情報量が多いため、読みにくいというものであった。そこで修正、改良を行い、翌年、「改訂 用具を使って楽に移乗介助を！ Q&A」(以下、改訂 Q&A とする)を作成し、再度、日本看護技術学会第17回学術集会時の日本看護技術学会のホームページを通じて、改訂 Q&A の公開を開始した。改訂した Q&A を用いて移動技術の研修会を企画、開催した。開催の結果、18名の参加者によるアンケートの結果では、肯定的な回答が大半をしめ、概ね好評との結果であった。ただし、この研修会の参加者は臨床の看護師であり看護教員の参加は少なかったことから、看護教員および学生に有効であるかは明らかにすることはできず、この点が今後の課題となった。

### (4) 看護基礎教育機関の移動技術教育に関する実態調査の結果

2018年6月に看護基礎教育における移動技術教育の実態調査を実施した。回答数は284人(回答率45.1%)であり、その属性は、教育歴、職位的には様々であったが、領域的にはその多くは、基礎看護学の教員であった。

移動技術の科目の実態として、基礎看護学の1～2科目で、学生が入学した前期に授業が行われていることが多く、それ以降は、繰り返しや演習が統合された形では展開されていないことが推測された。また、移動技術の学習方法として、看護教員が説明し、学生間で実施する方法が多く行われており、デモンストレーションや映像視聴は実施しているところが多いものの、必ずしもではないこと、実技試験はほぼ行われていないことが分かった。これらの学習方法の実施の有無と腰痛予防指針の知識の有無の関連(フィッシャーの正確確率検定)を見たところ、輸送車の移乗、輸送車の移送の「映像視聴」に有意な差が認められ( $P<0.01$ 、 $P<0.05$ )、腰痛予防指針を

知っている者の方が、輸送車の移乗・移送の映像視聴を実施していると言えた。

教授内容として重要・欠かせない内容について調査した結果を概観すると、「重要だと思っている」との回答が 80%以上であった教授内容は、「患者の安全を守ること」「患者が安楽であること」「ボディメカニクスの基礎知識」「ボディメカニクスを活用した具体的方法」であった。一方、回答が 50%に満たなかったのは、「患者が大きな力を使わないこと」「複数人で行う介助方法」「人を抱え上げない移乗・移動の意義」「原理原則・手順を守る」「介助者の腰痛を予防する」「腰痛予防指針の意義」「腰痛予防対策の内容」「移乗・移動用具の活用方法の実際」「介助者のメンタルヘルス対策」の 9 項目であった。これらの移動技術の重要・欠かせない内容の認識と腰痛予防指針の知識の有無(後述する)の関連(フィッシャーの正確確率検定)を見たところ、「患者の状態をアセスメント」「人を抱え上げない移乗・移動の意義」「移乗・移動用具の活用方法の実際」に有意な差が認められ、腰痛予防指針を知っている者の方が、これらが重要・欠かせないと認識していると言えた。

移動用具の種類を調査した結果、ベッド水平移動、ベッド上方移動、車椅子の移乗・移送は、「素手を使用・紹介する」の回答がいずれも約 90%であり、「スライディングシート」「移乗用ボード」は、30%以下であった。車椅子の移乗・移送でみると、素手が約 96%であり、その他の用具は 10%に満たなかった。車椅子の種類を見ると、標準型車椅子の使用・紹介が約 50%、モジュール型車椅子は約 15%に留まった。輸送車の移乗・移送をみると、「素手を使用・紹介する」は約 60%であったのに対し、「スライディングシートを使用・紹介する」も約 60%であり、この移動技術では用具の使用が他に比べると高いと言えた。これらの移動用具を「使用・紹介する」と腰痛予防指針の知識の有無(後述する)の関連(フィッシャーの正確確率検定)を見たところ、ベッド水平移動とベッド上方移動、車椅子の移乗・移送の「スライディングシート」、車椅子の移乗・移送の「移乗用ボード」「標準型車椅子」、および輸送車の移乗・移送の「素手」ならびに「移乗用ボード」に有意な差が認められた。つまり、腰痛予防指針を知っている者の方が、より移動用具を使用する・紹介すると回答しており、また、輸送車の移乗・移送では、指針をしらない人の方が多く「素手を使用する・紹介する」と回答していた。

移動用具の情報獲得の情報源について調査した結果、「教科書・参考資料」から情報を得たと回答した者が約 90%であり、次いで「研修会・講習会」(約 21%)、「Web 情報」(約 19%)、「学会」(約 16%)の順であった。一方、「厚生労働省刊行物」と回答したものは約 1%のみであった。これらの移動用具の情報源と腰痛予防指針の知識の有無の関連(フィッシャーの正確確率検定)を見たところ、「研修会・講習会」との間に有意な差が認められ( $P < 0.01$ )、腰痛予防指針の知識を持っている者は、「研修会・講習会」において情報獲得を行っていることが多いと言えた。但し、上述したとおり、「研修会・講習会」を情報源に挙げた者は、約 21%であったことから、「研究会・講習会」が腰痛予防指針および移動用具の情報提供に有効ではあるものの、普及・浸透はしていない現状であると推測された。

移動用具を用いた移動技術教育で困っていることについて自由記述を求めた結果、163 の自由記述データが記載され、7 つのカテゴリが抽出された。そのカテゴリは以下の通りである；「用具の不足」「授業時間の不足」「教育環境の未整備」「教員の経験・知識不足」「情報不足」「教育と臨床の乖離」「教育内容の不明瞭」。代表コードをみると、看護教員は、用具を用いた移動技術教育を行うにしても、情報不足、教育と臨床の乖離を感じ、さらに教育内容の精選の必要性、教員数不足、時間数不足、環境が整っていないと感じていると推察される。このことから、看護基礎教育では、移動用具を用いた効果的な移動技術教育がなされていないことが考えられた。

移動用具を用いた移動技術教育で工夫していることについて自由記述を求めた結果、76 の自由記述データが記載され、次の 8 つのカテゴリが抽出された；「用具不足の補充」「教員の経験・知識の補充」「用具の実体験」「用具のイメージ化」「臨床での使用場面の提示」「新しい情報の収集と提示」「用具使用と安全安楽の教授」「用具選択の視点の教授」。代表コードをみると費用がかからない方法での工夫や、伝えるべき知識の確認、注意点の明確化を行っていると言えた。

「職場における腰痛予防指針」が出されたことの看護教員の知識の有無を調査したところ、「知っている」と回答した者が 132 人(46.5%)に対して「知らない」と回答した者が 136 人(47.9%)であり、若干多いという結果であった。ところで実態調査では、「指針」を知っている看護教員は、知らない者に比べて、看護基礎教育での教授内容・方法に「指針」を反映した知識や移動技術内容を教授し、移動用具を積極的に使用・紹介していると言えた。つまり、看護教員が「指針」の知識を得て、移動技術教育に工夫が図れるよう「指針」の知識を普及させるための対策が今後必要と言えた。

「ノーリフティング原則」の知識の有無を調査したところ、「よく知っている」が 21 人(7.4%)、「まあまあ知っている」が 61 人(21.5%)、「少し知っている」が 76 人(26.8%)、「よく知らない」が 101 人(35.6%)であった。つまり、看護教員には、ノーリフティングの原則は、少しは知られているものの、半数以上には知られていないことが実態と言えた。

「ノーリフティング原則」を看護教育に導入することへの思いについての結果は、3 つの力

テゴリ「導入はよいと思う」「導入には工夫が必要」「導入は難しい」に分類された。「導入はよいと思う」には、「学会や学習会に参加したい」と挙げられたが、一方、「導入は難しい」では、「現場に浸透しないと難しい」「1～2年生に理解させるのは難しい」なども挙げられた。

#### (5) 移動技術教育プログラム試案を作成し有識者からの意見の確保

当該研究者が所属する教育機関でのカリキュラム、科目構成、教育目標、教育方法において、作成した動画および移動動作 Q&A、さらには各研究者が重要、あるいは特色として取り組んでいる移動技術教育展開を共有した。看護技術学会第 18 回学術集会での交流セッションにて発表し、会場参加者と意見交換を実施した。結果、会場参加者からは、カリキュラムの構成の仕方、ボディメカニクスの知識と用具を用いた移動技術のつながりの明確化、学生の体力づくりの工夫、学生が集中して演習を進めるための工夫、移動技術と国家試験とのつながりを持たせることの必要性、等が挙げられた。提案した用具を活用した移動・移乗技術教育については、「授業での活用の検討」「道具の使用に関する知識」「少ない用具の用い方に関する議論に対する要望」「用具の活用に対する関心」「教育する側に対する意識」が挙げられた。また、移動用具を取り入れることへの課題に関しては、「予算」「物品の管理」「各論との連携」「用具を活かす方法が分からない」「教員の理解」「臨床現場との乖離」「用具を使用する態度」「カリキュラムの時間数」が挙げられた。さらに前述の交流セッションにて移動技術教育に関心のある看護教員を有識者として、その教育機関で取り組んでいる教育プログラム内容について、インタビュー調査を行った結果、移動技術を含む科目名、単位・時間数、教員数・学生数、教授内容、教授方法、工夫している点、今後の課題、使用テキストであり、その内容は、実態調査で明らかになった移動技術教育の内容とほぼ一致していると言えた。

#### (6) 指針に基づく移動技術教育プログラムの提案

本研究の結果から、以下の移動技術教育プログラムを提案する。

#### (7) 研究の限界と今後の課題

3年間の本研究の取り組みにより看護教員に移動技術の研修会への参加を促し、指針に基づく移動技術教育を推進してきた。しかし、その参加状況を見ると関心が乏しい印象がある。また、先に述べた実態調査研究においても看護教員は新たな移動技術の知識が十分ではなくとも、教員および学生が今腰痛に困っているわけでないため、新たな移動技術教育プログラムを導入すべきニーズを持っていないことが伺われる。このような状況では、指針に基づく移動技術教育プログラムをより洗練させたとしても普及・浸透することは難しいのではないかと考える。したがって、引き続き指針に基づく移動技術教育プログラムの普及と実装を目指すことが必要である。新たに「普及と実装研究」の要素を取り入れて、移動技術教育プログラム普及活動モデルを洗練し、その要素を看護教員が修得できる研修システムの検討が必要と考える。このことが今後の課題である。

<文献> 水戸優子代表：新たな腰痛予防対策指針をふまえた看護基礎教育における移動技術プログラムの開発．平成 29，30，31 年度基盤研究(C)(一般)研究成果報告書.2020.3

**看護基礎教育における移動技術の到達目標**：看護基礎教育課程において、厚生労働省から出された「職場の腰痛予防指針」のなかの腰痛予防対策内容を含んだ移動技術を、卒業時までに修得し、卒業後新人看護師の時点で、「指針」の知識・原則に基づいて移動技術を実施できることを到達目標に置き、その達成を可能にする移動技術教育プログラムを提案する。

以下の、～の要素を、各看護基礎教育機関の理念やカリキュラムに応じて組み合わせ、プログラムを作成する。

【指針に基づく移動技術の知的要素の選定】(Q&Aの基礎編に掲載)

1)移動・移乗動作とは、定義と意義、2)ボディメカニクスと人間の基本姿勢・動作とは、3)対象者の安全・安楽・自立の視点、4)介助者の腰痛の発生原因と腰痛予防対策、5)介助者の気力・体力の鍛錬、6)環境を整えること、7)用具を活用すること

【指針に基づく移動技術の実践的要素】(Q&Aの実践編に掲載)

1)対象者に合った移動・移乗方法の選択、2)アセスメントの視点(動作要因、環境要因、個人的要因、心理・社会的要因)3)移乗方法選定のためのフローチャートの紹介、4)教授すべき移動・移乗技術；体位変換(側方・上方)

【移動技術の教授・学習のための有効な方法：カリキュラム検討】

1)各校の理念・目的、2)カリキュラム構造に応じた配置の検討、3)教科目の時間数、順序性、内容の整備、担当教員数の検討、4)科目開講の時期、回数、積み重ね・統合ができていないかの確認

【移動技術の教授・学習のための有効な方法：教材・学習材の選定】

アクティブ・ラーニングとする(学生主導探索型、学生実体験型、事前・事後学習、個人学習とグループ学習の組み合わせ方法、チェックリストの活用、実技試験・OSCE)、DVD、自作ビデオ、動画、改訂 Q&A の活用

【移動技術の教授・学習の推進・普及を可能にする環境整備】

1)看護教員が指針に関連した移動技術の知識・方法の修得を促す研修会の開催、2)新たな移動技術の研究の推進、3)看護教員のための移動技術教育の相談窓口の設置

上記～を組み合わせ、プログラム化することをサポートするために、今後の方法について早急に検討する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西田直子、水戸優子、若村智子、富田川智志、平田美和、國澤尚子、小林由実	4. 巻 1
2. 論文標題 「改訂腰痛予防対策指針とノーリフティング原則」に関する看護教員の知識と看護学生への移動技術および用具に関する教育との関連	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護人間工学会誌	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水戸優子、西田直子、若村智子、國澤尚子、平田美和、小林由実、富田川智志	4. 巻 15
2. 論文標題 看護職者による患者移動動作ガイドライン作成に向けた基礎研究：車椅子移乗介助に関する実態調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神奈川県立保健福祉大学誌	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 西田直子、水戸優子、若村智子、平田美和、小林由実、富田川智志、國澤尚子
2. 発表標題 交流セッション6看護大学における用具を活用した移動・移乗動作技術の教育展開
3. 学会等名 日本看護技術学会第18回学術集会講演抄録集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水戸優子、西田直子、若村智子、小林由実、平田美和、國澤尚子、富田川智志
2. 発表標題 看護基礎教育における移動技術教育の実態調査(1)
3. 学会等名 日本看護技術学会第18回学術集会講演抄録集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田美和、水戸優子、西田直子、若村智子、小林由実、國澤尚子、富田川智志
2. 発表標題 看護基礎教育における移動技術教育の実態調査(2)
3. 学会等名 日本看護技術学会第18回学術集会講演抄録集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田直子、水戸優子、小林由実、富田川智志、平田美和、若村智子、國澤尚子
2. 発表標題 看護基礎教育教員の「腰痛予防対策指針およびノーリフティング原則」の認知の現状
3. 学会等名 第60回日本社会医学会総会（東京慈恵会医科大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本香織、長島俊輔、水戸優子、國澤尚子、平田美和、小林由実、富田川智志、西田直子、若村智子
2. 発表標題 看護技術としての移動動作に関する文献検討
3. 学会等名 日本看護技術学会第17回学術集会
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 西田直子、水戸優子、國澤尚子、若村智子、平田美和、小林由実、富田川智志
2. 発表標題 改訂「用具を使って楽に移乗介助を！ Q&A 2018」の作成に向けての検討
3. 学会等名 日本看護技術学会第17回学術集会
4. 発表年 2018年～2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本看護技術学会主催看護技術研修会の開催：全国キャラバン研修会ジェネラルナースの技術力を高めよう！-エビデンスに基づく離床の技-（2019年1月26日京都学園大学）において、看護師の腰痛を予防するための移動・移乗法の知識、技術の修得促進に向けて、本研究者が企画、運営、アドバイザーを務めて実施した。

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西田 直子  (Nishida Naoko)  (80153881)	京都先端科学大学・健康医療学部・教授   (34303)	
研究分担者	若村 智子  (Wakamura Tomoko)  (40240452)	京都大学・医学研究科・教授   (14301)	
研究分担者	小林 由実  (Kobayashi Yoshimi)  (20719421)	神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・助教   (22702)	平成29年～令和1年9月30日まで研究分担者、以降研究協力者
連携研究者	平田 美和  (Hirata Miwa)  (10325988)	東京医療保健大学・看護学部・講師   (32809)	平成29年、30年研究協力者 R1年連携研究者
連携研究者	國澤 尚子  (Kunisawa Naoko)  (20310625)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授   (22401)	平成29年、30年研究協力者 R1年連携研究者



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携 研究者	富田川 智志  (Tomitagawa Satoshi)  (90441881)	京都女子大学・家政学部・助教     (34305)	